# 中期目標の達成状況に関する評価結果

群馬大学

平成２９年６月

大学改革支援・学位授与機構

# 目　　次

法人の特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

（法人の達成状況報告書から転載）

評価結果

≪概要≫　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

≪本文≫　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

≪判定結果一覧表≫　・・・・・・・・・・・・・・・・・　17

## 法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

本学は、北関東を代表する総合大学として、知の探求、伝承、実証の拠点として、次世代を担う豊かな教養と高度な専門性を持った人材を育成すること、先端的かつ世界水準の学術研究を推進すること、そして、地域社会から世界にまで開かれた大学として社会に貢献することを基本理念に掲げ、以下の目標を設定する。

① 教育においては、1)教養教育、学部専門教育、大学院教育を通じて、豊かな人間性を備え、広い視野と探求心を持ち、基礎知識に裏打ちされた深い専門性を有する人材を育成する。2)学生の勉学を促進する学習環境と支援体制を整備する。

② 研究においては、1)各専門分野で独創的な研究を展開する。とりわけ重点研究領域において国内外の大学・研究機関と連携して先端的研究を推進し、国際的な研究・人材育成の拠点を形成する。2)基礎的研究と応用的、実践的研究との融合を図り、産業界や自治体等との共同研究・共同事業を推進する。

③ 社会貢献においては、1)地域の知の拠点として、学内外関係機関との連携した活動を通じて文化を育み、豊かな地域社会を創るために活動する。2)知の地域社会への還元を推進し、産業発展に貢献する。3)地域医療を担う中核として、医療福祉を向上させる。4)地域住民の多様な学習意欲や技術開発ニーズに応え、地域社会の活性化に貢献する。

④ 大学運営においては、1)学長のリーダーシップの下で経営戦略を明確にし、教職員の能力を引き出し、自主性・自律性を持って効率的な大学運営にあたる。2)学内での情報の共有化と社会に対する情報発信を促進する。3)不断の点検・評価と改革を推進し、大学の活力を維持発展させる。

本学は、昭和24年５月に国立学校設置法により、群馬師範学校、群馬青年師範学校、前橋医学専門学校、前橋医科大学並びに桐生工業専門学校の各旧制の諸学校を包括し、学芸学部、医学部及び工学部の３学部を有する新制の国立総合大学として発足した。

創設以来、北関東を代表する総合大学としてその使命を果たすとともに、未来への志向をもって新たな課題に、意欲的、創造的に取り組み、人間の尊厳を常に念頭において社会で活躍する有益な人材を送り出してきた。

この間、時勢の要求を先取りして、組織の新設、改組・再編を進め、現在では、教育学部、社会情報学部、医学部、理工学部の４学部と、教育学研究科（修士課程・専門職学位課程）、社会情報学研究科（修士課程）、医学系研究科（修士課程・博士課程）、保健学研究科（博士前期課程・博士後期課程）及び理工学府（博士前期課程・博士後期課程）の４研究科・１学府及び特別支援教育特別専攻科、並びに大学附置研究所である生体調節研究所で構成されている。

本学は、上記の「大学の基本的な目標」を実現するため、多様な教育・研究活動及び社会貢献に積極的に取り組んできた。

その成果は、第１期中期目標期間からの継続事業も含め、グローバル COE プログラム、

博士課程リーディングプログラム、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン、未来医療研究人材養成拠点形成事業、テニュアトラック普及・定着事業、ポストドクター・キャリア開発事業などの補助事業採択に結実している（URL http://www.gunma-u.ac.jp/research/g7832/g7576）。

［個性の伸長に向けた取組］

○　国立大学では国内唯一の重粒子線治療施設を活用した様々な取組を行っている。

教育面では、平成23年度に文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に「重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム」が採択され、重粒子線医学・生物学及び重粒子線先端臨床に加えて、高度医療機器やその運用技術の研究開発を担う工学系の世界的なリーダーを養成することを目的として、医学系研究科（博士課程）に医学・工学融合型の学位プログラム「重粒子線医工連携コース」を設置した。学内及び国内外の連携組織や医療装置メーカーの協力のもと、各専門分野の領域を超えた教育を行っているほか、国際的な視野を養うため、コース履修生に、海外インターンシップや国際シンポジウムでの研究発表等を経験させている（別添資料１）。

研究面では、大型プロジェクトによる臨床研究の推進、先駆的・先導的ながん治療などを行うとともに、最先端医療機器の開発をはじめとする次世代産業の育成に取り組んでいる。

（関連する中期計画）計画１－１－２－２、計画２－１－１－２

○　平成26年度に教員組織を一元化し、柔軟な人員配置を可能とする「学術研究院」を設置し、優れた成果が期待される組織に重点的・効果的に人員配置が可能となる仕組みを構築した（別添資料２）。

また、この仕組みを有効活用して、「未来先端研究機構」を設置し、本学の強みである「統合腫瘍学」と「内分泌代謝・シグナル学」を核に、６つのプログラム及びビッグデータ総合解析センターの運用を開始した。

各プログラムには、本学の研究者と、世界中から公募した研究者を配置するほか、海外ラボラトリーを設置し、国際共同研究を実施している。

今後は本学の強みである「統合腫瘍学」と「内分泌代謝・シグナル学」の分野において、世界水準の研究が展開されることが期待されている（別添資料３）。

（関連する中期計画）計画２－２－１－１

○　国際社会において主体的に活躍できるトップリーダーの育成を目的として、医学部生と理工学部生を対象として、平成 25 年度にグローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コースを開設し、外国人研究者との交流や海外留学、先端研究との早期の接触、産業界のリーダーと懇談する場の設置などの環境を整備した。平成27年度からは、教育学部、社会情報学部においても開設し、全学的にGFL育成コースを展開している（別添資料４）。

（関連する中期計画）計画１－１－１－２

○　コミュニティの一員として、地域と共に歩む大学を目指し、教育・研究とともに社会貢献活動、特に地域貢献活動において様々な取組を継続的に行った。

地域連携推進室を中心に、各種公開講座や「群馬ちびっこ大学」などの、地域の教育・文化の発展に寄与する取組を実施したほか、県教育委員会と連携し県内高校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）やスーパーグローバルハイスクール（SGH）等の教育事業に積極的に協力した。また、群馬県地域特有の外国人集住という課題に対応する「多文化共生推進士養成事業」や、地域産業振興のための「アナログナレッジ養成拠点プログラム」等を実施した。

これら地域貢献に係る取組を積極的に行った結果、日本経済新聞社産業地域研究所が毎年度実施している「全国大学の地域貢献度調査」において、常に上位にランキングされた（平成22年度：１位、23年度：４位、24年度：７位、25年度：５位、26年度：２位、27年度：４位）。またグローカル部門では平成26、27年度と続けて１位を獲得しており、研究成果や人材が地域振興に役立っていると評価された（別添資料５）。
（関連する中期計画）計画３－１－１－１

［東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等］

○　医学部附属病院では、宮城県・岩手県内の医療施設及び避難所等へ災害支援のため看護師の派遣のほか、群馬県、被災自治体等からの要請に基づき、宮城県南三陸町及び宮城県気仙沼市へ医療救護班の、宮城県石巻市及び宮城県仙台市へ医師、宮城県石巻市へMSW（医療ソーシャルワーカー）の派遣を行った。

○　福島県からの要請に基づき職員を派遣し、被災地（福島県）での緊急被ばくスクリーニングを行ったほか、福島県下約 2,200 箇所の土壌及び空間の放射線量の調査に、専門の教授・研究員を派遣した。

○　教職インターンシップを活用し、被災地の児童生徒の教育支援のため、宮城教育大学の協力を得て学生を派遣し、補習授業補助、問題回答採点、休み時間の生徒支援等を行った。

○　福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクトとして、群馬県・県内市町村、民間団体等による被災者支援内容調査、避難生活に役立つ様々な情報の発信、自宅周辺等の空間線量の簡易測定、学生ボランティアによる子供への学習支援、群馬県内で避難生活中の家族のための情報交換会の企画等を行った。

○　本学の学生が、全国大学生協連が募集する「東日本大震災週末ボランティア」を通じて、被災地域（宮城県七ヶ浜町、東松島市）において被害にあった家屋の及び庭先の泥の搬出や家財道具の運び出し等のボランティア活動を行った。

○　附属学校では、被災地域の附属特別支援学校の生徒を受け入れたほか、被災避難者（岩手県）からの教材提供の依頼により、絵の具セット、ポスターカラーセットを送付した。

○　被災した地域の学生に対する経済的な支援活動として、入学料、授業料、検定料の免除を実施し、被災大学等の学生・教職員・地域住民へ図書館利用サービスを提供した。

# 評価結果

## ≪概要≫

第２期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、群馬大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

**＜判定結果の概要＞**

| 中期目標（大項目）<br>中期目標（中項目） | 判定 | 中期目標（小項目）の判定の分布 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 非常に優れている | 良好 | おおむね良好 | 不十分 |
| **（Ⅰ）　教育に関する目標** | おおむね良好 | | | | |
| ①　教育内容及び教育の成果等に関する目標 | おおむね良好 | | | 2 | |
| ②　教育の実施体制等に関する目標 | おおむね良好 | | | 1 | |
| ③　学生への支援に関する目標 | おおむね良好 | | | 1 | |
| **（Ⅱ）　研究に関する目標** | おおむね良好 | | | | |
| ①　研究水準及び研究の成果等に関する目標 | おおむね良好 | | | 2 | |
| ②　研究実施体制等の整備に関する目標 | おおむね良好 | | | 1 | |
| **（Ⅲ）　その他の目標** | 良好 | | | | |
| ①　社会との連携や社会貢献に関する目標 | 非常に優れている | 1 | 1 | | |
| ②　国際化に関する目標 | おおむね良好 | | | 2 | |

**＜主な特記すべき点＞**

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

○　重粒子線治療研究を推進した結果、重イオンマイクロサージェリー治療に必須な微小重イオンビームの位置決めや線量測定のための測定器の開発、微小病変に照射するための小照射野の形成及び人体用コンプトンカメラ試験器による人体コンプトン画像取得の成功等につながっている。（中期計画 2-1-1-2）

○　平成 26 年度に未来先端研究機構を、平成 27 年度にビッグデータ統合解析センターを設置し、海外の大学等の機関から海外ラボラトリーを招致するなど、統合腫瘍学と内分泌代謝学の分野における国際共同研究を推進している。また、研究体制や成果等の評価を行うため、がん治療学会の会長をはじめとした３名の研究者を委員とする国際アドバイザリーボードを設置し、アドバイザーをシンポジウムに招へいしている。
（中期計画 2-2-1-2）

個性の伸長に向けた取組

○　平成 23 年度から各キャンパスの図書館に英語多読教材を整備するとともに、平成 25 年度に海外研修の単位化及び英語の外部試験の全学義務化を実施することにより、外国語教育の充実と国際的対応能力の育成に向けた教育を展開した結果、理工学部 1 年次生の民間による英語力診断テスト（VELC TEST）のスコアの平均は、入学時と比較して 1 年次修了時には 18 点上昇している。（中期計画 1-1-1-2）

○　地域の振興と発展に貢献するため、地域連携推進室を中心として、こども体験教室「群馬ちびっこ大学」や県内高等学校への出前授業等を実施しているほか、各学部において地域の諸課題や住民の生活や健康に係るニーズに対応した地域貢献事業を展開している。これらの取組の結果、平成 22 年度の民間企業による大学の地域貢献度調査において 1 位となっているほか、平成 27 年度まで 7 位以上にランクインし、グローカル部門では平成 26 年度、平成 27 年度に 1 位となっている。また、社会情報学部では、群馬県内の療養所を視察しハンセン病を学ぶバスツアーの企画や、バスツアーのガイド養成のための市民講座の開設をきっかけに、国立療養所等との間でハンセン病に関する教育研究を通して、ハンセン病及びハンセン病対策の歴史に関する正しい知識の普及と啓発を行うことを目的とした包括的な連携協定を平成 27 年度に締結している。
（中期計画 3-1-1-1）

**＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞**

○　医学部附属病院では、宮城県・岩手県内の医療施設及び避難所等へ災害支援のため看護師の派遣のほか、群馬県、被災自治体等からの要請に基づき、宮城県南三陸町及び宮城県気仙沼市へ医療救護班の、宮城県石巻市及び宮城県仙台市へ医師、宮城県石巻市へMSW（医療ソーシャルワーカー）の派遣を行った。

　このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

# ≪本文≫

## （Ⅰ）　教育に関する目標

### １．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育に関する目標」に関する中期目標（３項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### ２．中期目標の達成状況

#### （１）教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した２項目のうち１項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された１計画を含む。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○外国語教育の充実

中期目標（小項目）「学士課程　豊かな知性と感性及び広い視野を持ち、学士力に裏打ちされた、社会から信頼される人材を養成する。」について、平成 23 年度から各キャンパスの図書館に英語多読教材を整備するとともに、平成 25 年度に海外研修の単位化及び英語の外部試験の全学義務化を実施することにより、外国語教育の充実と国際的対応能力の育成に向けた教育を展開した結果、理工学部 1 年次生の民間による英語力診断テスト（VELC TEST）のスコアの平均は、入学時と比較して 1 年次修了時には 18 点上昇している。（中期計画 1-1-1-2）

（特色ある点）

○専門分野の領域を超えた教育の実施

中期目標（小項目）「大学院課程　高い倫理観と豊かな学識に立脚し、実践力を有する高度専門職業人及び創造的能力を備えた研究者を養成する。」について、医学系研究科博士課程では、重粒子線医学・生物学及び重粒子線先端臨床に

加えて、高度医療機器やその運用技術の研究開発を担う工学系の世界的なリーダーを養成するため、平成 23 年度に重粒子線治療施設を活用した医学・工学融合型の学位プログラム重粒子線医工連携コースを設置し、学内及び国内外の連携組織や医療装置メーカーの協力の下、各専門分野の領域を超えた教育を行っている。（中期計画 1-1-2-2）

（２）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（１項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○学内横断の教育研究実施体制の構築

中期目標（小項目）「教育課程を効果的に遂行するために、教員を適切に配置し、FD 活動及び評価システムを活用して、教育の質の改善を行う。」について、確かな基礎学力と広い学問分野にわたる課題解決能力を備えた人材及び科学技術分野で活躍できる研究者・技術者を育成するため、平成 25 年度に工学部、工学研究科を発展的に解消して新たに理工学部、理工学府を設置している。また、学内組織の横断的な教育・研究の実施に柔軟に取り組むため、平成 26 年度に教員組織を一元化した学術研究院を設置し、国際化に対応するための英語教員や理工系人材を育成するための数学教員を配置するなど、全学的視点に立った人員配置を行っている。（中期計画 1-2-1-1）

（３）学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（１項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○学生への経済的支援の充実

中期目標（小項目）「多様な学生のニーズに対応した効果的な学習支援を行うため、相談体制を充実するとともに、学生の生活、健康及び就職などの学生生活全般にわたる支援を行う。」について、学生への経済的支援として、従来の入学料免除及び授業料免除のほか、東日本大震災の罹災学生を対象とした入学料及び授業料免除や成績優秀者に対する授業料免除を実施しており、平成 26 年度に東日本大震災の被災学生 38 名及び成績優秀者 13 名の授業料全額免除を行っている。（中期計画 1-3-1-1）

## （Ⅱ）　研究に関する目標

### １．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「研究に関する目標」に関する中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### ２．中期目標の達成状況

#### （１）研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した２項目のうち１項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された１計画を含む。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○重粒子線治療研究の推進

中期目標（小項目）「各専門分野において独創的な研究を世界水準で展開するとともに、本学の伝統をなす実践的、実学的研究と基礎的諸科学との融合を図り、学際的研究分野を進展させる。」について、重粒子線治療研究を推進した結果、重イオンマイクロサージェリー治療に必須な微小重イオンビームの位置決めや線量測定のための測定器の開発、微小病変に照射するための小照射野の形成及び人体用コンプトンカメラ試験器による人体コンプトン画像取得の成功等につながっている。（中期計画 2-1-1-2）

（特色ある点）

○生体調節研究所における研究の推進

中期目標（小項目）「各専門分野において独創的な研究を世界水準で展開するとともに、本学の伝統をなす実践的、実学的研究と基礎的諸科学との融合を図り、学際的研究分野を進展させる。」について、生体調節研究所では、ミトコンドリア DNA の母性遺伝の謎の一端を単独研究で解明し、平成 23 年度に著名な学術誌に発表し、ホットトピックとして紹介され、多くのマスメディア、インターネッ

ト等でも取り上げられており、平成 23 年度に文部科学大臣表彰若手科学者賞、平成 24 年度に日本女性科学者の会奨励賞等を受賞している。（中期計画 2-1-1-1）

（２）研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（１項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した１項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された１計画を含む。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○国際共同研究の実施体制の整備

中期目標（小項目）「研究の発展を促進するため、また、大学として重点的に取り組む領域や学部(研究科、学府)・学科（専攻）の枠を越えた複合領域の研究を推進するために、学長のリーダーシップに基づいて研究者等を適切に配置し、施設及び設備などの研究環境を整備する。さらに、国際的競争力を持つ先進的研究拠点の活動を担う人材を育成する。」について、平成 26 年度に未来先端研究機構を、平成 27 年度にビッグデータ統合解析センターを設置し、海外の大学等の機関から海外ラボラトリーを招致するなど、統合腫瘍学と内分泌代謝学の分野における国際共同研究を推進している。また、研究体制や成果等の評価を行うため、がん治療学会の会長をはじめとした３名の研究者を委員とする国際アドバイザリーボードを設置し、アドバイザーをシンポジウムに招へいしている。

（中期計画 2-2-1-2）

○テニュアトラック普及・定着事業への取組

中期目標（小項目）「研究の発展を促進するため、また、大学として重点的に取り組む領域や学部(研究科、学府)・学科（専攻）の枠を越えた複合領域の研究を推進するために、学長のリーダーシップに基づいて研究者等を適切に配置し、施設及び設備などの研究環境を整備する。さらに、国際的競争力を持つ先進的研究拠点の活動を担う人材を育成する。」について、教育研究組織の活性化を図るため、平成 22 年度から文部科学省の科学技術人材育成費補助金を活用してテニュアトラック普及・定着事業に取り組んでおり、第２期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に 25 名のテニュアトラック教員を採用している。このうち６名はテニュア審査に合格し、任期の定めのない教員として採用されている。当該事業は平成 27 年度に文部科学省が実施した事後評価において総合Ａ評価となっている。（中期計画 2-2-1-4）

## （Ⅲ）　その他の目標

### １．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

（判断理由）「その他の目標」に関する中期目標（２項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### ２．中期目標の達成状況

#### （１）社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が非常に優れている

（判断理由）「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、１項目が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○地域の諸課題やニーズに対応した地域貢献事業の展開

中期目標（小項目）「大学の教育研究の成果を積極的に開放するとともに、地域社会の核となって他大学及び諸機関などとの連携活動を推進し、地域社会の活性化と教育文化水準の向上に貢献する。」について、地域の振興と発展に貢献するため、地域連携推進室を中心として、こども体験教室「群馬ちびっこ大学」や県内高等学校への出前授業等を実施しているほか、各学部において地域の諸課題や住民の生活や健康に係るニーズに対応した地域貢献事業を展開している。これらの取組の結果、平成 22 年度の民間企業による大学の地域貢献度調査において 1 位となっているほか、平成 27 年度まで 7 位以上にランクインし、グローカル部門では平成 26 年度、平成 27 年度に 1 位となっている。また、社会情報学部では、群馬県内の療養所を視察しハンセン病を学ぶバスツアーの企画や、バスツアーのガイド養成のための市民講座の開設をきっかけに、国立療養所等との間でハンセン病に関する教育研究を通して、ハンセン病及びハンセン病対策の歴史に関する正しい知識の普及と啓発を行うことを目的とした包括的な連携協定を平成 27 年度に締結している。（中期計画 3-1-1-1）

○地域の自治体、産業界への研究シーズの積極的発信

中期目標（小項目）「産学官連携活動を一層推進し、研究成果の社会還元を行うなど、社会の多様なニーズに応える。」について、平成 26 年度に従来の産学官の連携推進組織に地元の地方銀行が加わった群馬産学官金連携推進会議を設置するとともに、群馬大学、埼玉大学、茨城大学、宇都宮大学の連携による首都圏北部４大学連合（４Ｕ）や、県内でコーディネート活動を行っている産業支援機関、金融機関及び商工会議所の関係者によるコーディネーター連絡会議を通じて技術移転や企業相談を行うなど、地域の自治体や産業界への研究シーズの発信を積極的に展開している。これらの取組により、研究シーズを活用した共同研究の受入件数は平成 22 年度の 57 件から平成 27 年度の 85 件へ、金額は平成 22 年度の約２億 2,400 万円から平成 27 年度の約３億 9,100 万円へ増加している。

（中期計画 3-1-2-1）

**（２）国際化に関する目標**

**【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

**＜特記すべき点＞**

**（特色ある点）**

○海外の教育者や保健行政者対象とした学術交流の推進

中期目標（小項目）「海外の大学等との学術交流を推進し、教職員の国際交流を積極的に行う。」について、保健学研究科におけるチーム医療の普及に向けた取組と研究の結果、平成 25 年度に世界保健機関（WHO）から WHO Collaborating Centre として指定を受け設置した多職種連携教育研究研修センター及びその活動をサポートする多職種連携教育推進室を中心として、海外の教育者や保健行政者を対象に多職種連携教育育成トレーニングコースを開催し、韓国、インドネシア、モンゴル、トルコから６名が参加している。（中期計画 3-2-2-1）

≪判定結果一覧表≫

| 中期目標（大項目）<br>中期目標（中項目）<br>中期目標（小項目） | 計画番号 | 中期計画 | 判定 | 特記すべき点 |
|---|---|---|---|---|
| （Ⅰ） 教育に関する目標 | | | おおむね良好 | |
| ① 教育内容及び教育の成果等に関する目標 | | | おおむね良好 | |
| 学士課程<br>豊かな知性と感性及び広い視野を持ち、学士力に裏打ちされた、社会から信頼される人材を養成する。 | | | おおむね良好 | |
| | 1-1-1-1 | 学士課程<br>学部の教育の理念・目標に基づく明確なアドミッション・ポリシーを広く周知し、適切な入学者選抜を実施する。 | おおむね良好 | |
| | 1-1-1-2 | 教養教育においては、幅広く深い教養を涵養し、自然との共生を基盤にした豊かな人間性と総合的判断力を育むために、少人数ゼミ、総合的学習、外国語教育等に重点をおき、国際化に対応できる能力及び情報処理能力など、学士力の基盤となる能力を身に付けさせる教育を展開する。 | 良好 | 優れた点 |
| | 1-1-1-3 | 専門教育においては、専門職業人として社会で活躍できるように、専門分野の知識と技能及び実践的能力と問題解決能力を涵養して、学士力を高める教育を展開する。 | おおむね良好 | |
| | 1-1-1-4 | 教育成果を向上させるために、少人数学習、グループ討論形式の授業等を展開する。特に教員と学生との対話を重視しながら、問題解決のための調査、分析、結果のまとめ、報告書作成、プレゼンテーション等の技能を修得させる。 | おおむね良好 | |
| | 1-1-1-5 | キャリア教育を、初年次から専門教育にわたって体系的に実施する。 | おおむね良好 | |
| | 1-1-1-6 | シラバスに明示した厳格な評価基準により、適切な評価を実施するとともに、必要に応じてGPAによる成績の検証を行う。また、卒業認定の基準に基づき、適正な卒業判定を行う。 | おおむね良好 | |
| 大学院課程<br>高い倫理観と豊かな学識に立脚し、実践力を有する高度専門職業人及び創造的能力を備えた研究者を養成する。 | | | おおむね良好 | |
| | 1-1-2-1 | 大学院課程<br>研究科及び学府の理念・目標に基づく明確なアドミッション・ポリシーを広く周知するとともに、社会人等の多様な学習歴を持つ受験生の資質・能力を適切に評価して入学者を選抜する。 | おおむね良好 | |
| ○ | 1-1-2-2 | 専門分野の最先端までの知識と技能を修得させるとともに、課題探求・問題解決能力等の高度な研究能力を養成する教育を展開する。高度専門職業人を目指す者は、修得した能力を実践に活かせるよう、研究者を目指す者は、自立して創造的研究活動ができるよう指導する。 | おおむね良好 | 特色ある点 |
| | 1-1-2-3 | 大学院課程で共通に必要とされる知識・技能を厳選し、これらを効率よく修得させるための共通カリキュラムを系統的に展開する。また、学部教育と連続性・整合性を持つ体系的な大学院カリキュラムを展開する。 | おおむね良好 | |

（注）計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

| 中期目標（大項目）<br>中期目標（中項目）<br>中期目標（小項目） | 計画番号 | 中期計画 | 判定 | 特記すべき点 |
|---|---|---|---|---|
| | 1-1-2-4 | 効果的に教育を展開するために、セミナー、研究会、学会等に積極的に参加させ、国内外の研究者との交流を通して、教育成果を検証する。適切な評価基準を設定し、専門学術誌や国内外で開催される専門学会での発表等を評価する。 | おおむね良好 | |
| | 1-1-2-5 | 夜間や特定の時期に開講するなど教育方法を工夫し、社会人等のニーズに応える。 | 良好 | |
| | 1-1-2-6 | シラバスに明示した厳格な評価基準により、適切な評価を行う。また、成績優秀な学生の顕彰を行うとともに、修了年限を短縮する制度を積極的に活用する。 | おおむね良好 | |
| ② 教育の実施体制等に関する目標 | | | おおむね良好 | |
| 教育課程を効果的に遂行するために、教員を適切に配置し、FD活動及び評価システムを活用して、教育の質の改善を行う。 | | | おおむね良好 | |
| | 1-2-1-1 | 教育体制を点検し、全学的視点に立って適切な人員配置を行う。 | おおむね良好 | 特色ある点 |
| | 1-2-1-2 | 教員評価、FD活動、学生による授業評価及び学生・卒業生などの意見調査を行い、教育方法を改善する。 | おおむね良好 | |
| | 1-2-1-3 | 学生との懇談会を定期的に実施し、学生から意見を聴取して、教育方法の改善と教育環境の整備を行う。また、教員の学生指導や教員と学生の意見交換にはICTも活用する。 | おおむね良好 | |
| ③ 学生への支援に関する目標 | | | おおむね良好 | |
| 多様な学生のニーズに対応した効果的な学習支援を行うため、相談体制を充実するとともに、学生の生活、健康及び就職などの学生生活全般にわたる支援を行う。 | | | おおむね良好 | |
| | 1-3-1-1 | 大学教育・学生支援機構及び各学部などにおいて、学生の学習支援、生活支援、就職支援、健康支援を行う。 | おおむね良好 | 特色ある点 |
| （Ⅱ） 研究に関する目標 | | | おおむね良好 | |
| ① 研究水準及び研究の成果等に関する目標 | | | おおむね良好 | |
| 各専門分野において独創的な研究を世界水準で展開するとともに、本学の伝統をなす実践的、実学的研究と基礎的諸科学との融合を図り、学際的研究分野を進展させる。 | | | おおむね良好 | |
| | 2-1-1-1 | 研究者の自由な発想と課題設定に基づく多様な基礎研究を推進する。 | おおむね良好 | 特色ある点 |
| ○ | 2-1-1-2 | 本学の特色を活かし、優れた研究教育拠点の形成を見込むことのできる研究をプロジェクト型研究として設定し、重点的に推進する。 | 良好 | 優れた点 |
| 地域社会の諸課題についての研究を行い、その成果を地域社会に還元する。 | | | おおむね良好 | |
| | 2-1-2-1 | 学外組織と共同研究を行う等、地域的特性に根ざした諸課題を解決するための研究を推進し、その成果を広く地域社会に還元する。 | おおむね良好 | |

| 中期目標（大項目）<br>中期目標（中項目）<br>中期目標（小項目） | 計画番号 | 中期計画 | 判定 | 特記すべき点 |
|---|---|---|---|---|
| ② 研究実施体制等の整備に関する目標 | | | おおむね良好 | |
| 研究の発展を促進するため、また、大学として重点的に取り組む領域や学部（研究科、学府）・学科（専攻）の枠を越えた複合領域の研究を推進するために、学長のリーダーシップに基づいて研究者等を適切に配置し、施設及び設備などの研究環境を整備する。さらに、国際的競争力を持つ先進的研究拠点の活動を担う人材を育成する。 | | | おおむね良好 | |
| | 2-2-1-1 | 学長が裁量権を持つ教職員枠により、研究者、研究支援者等の適正配置を行う。 | おおむね良好 | |
| ○ | 2-2-1-2 | 強みを有する統合腫瘍学や内分泌代謝学等の先端研究分野において、世界水準の研究力を強化するため、先端的な研究組織（未来先端研究イニシアティブ）を設置し、ハーバード大学マサチューセッツ総合病院等海外からも優秀な外国人研究者を招へいし、国際共同研究を推進する。 | 良好 | 優れた点 |
| | 2-2-1-3 | 若手研究者の研究を支援するために研究助成金及び海外派遣助成金を措置する。 | おおむね良好 | |
| | 2-2-1-4 | 教育研究組織を活性化するため、テニュアトラック制度等を活用し、優秀な若手研究者を積極的に採用する。 | 良好 | 優れた点 |
| | 2-2-1-5 | 施設使用面積並びに研究室の配分・配置の見直しを行い、研究スペースを競争原理に基づき重点的に貸与する。 | おおむね良好 | |
| （Ⅲ） その他の目標 | | | 良好 | |
| ① 社会との連携や社会貢献に関する目標 | | | 非常に優れている | |
| 大学の教育研究の成果を積極的に開放するとともに、地域社会の核となって他大学及び諸機関などとの連携活動を推進し、地域社会の活性化と教育文化水準の向上に貢献する。 | | | 非常に優れている | |
| | 3-1-1-1 | 地域連携推進室を中心に、公開講座、各種体験教室、高大連携事業等の実施により、地域の振興・発展に貢献する。 | 非常に優れている | 優れた点 |
| 産学官連携活動を一層推進し、研究成果の社会還元を行うなど、社会の多様なニーズに応える。 | | | 良好 | |
| | 3-1-2-1 | 研究・産学連携戦略推進機構を中心に、産学連携活動と知的財産の技術移転活動を推進する。 | 良好 | 優れた点 |
| ② 国際化に関する目標 | | | おおむね良好 | |
| 海外からの留学生の受入れ及び本学学生の海外派遣を推進するとともに、国際的視野に立って教育、研究を充実する。 | | | おおむね良好 | |
| | 3-2-1-1 | 海外からの留学生の受入れ及び本学学生の海外派遣を推進する。また、留学生に対する教育や生活支援等を充実させる。 | おおむね良好 | |
| 海外の大学等との学術交流を推進し、教職員の国際交流を積極的に行う。 | | | おおむね良好 | |
| | 3-2-2-1 | 教職員の国際交流を推進し、必要に応じて外国人研究者の招聘を行う。 | おおむね良好 | 特色ある点 |

別　紙

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

| | |
|---|---|
| （１） | 特色を活かしつつ、重粒子線医学研究を推進し、優れた研究教育拠点の形成等を目指した計画を進めており、重粒子線治療研究を推進した結果、重イオンマイクロサージェリー治療に必須な微小重イオンビームの位置決めや線量測定のための測定器の開発、小照射野の形成及び人体コンプトン画像取得の成功等の成果が得られている。また、医学系研究科博士課程では、平成23年度に重粒子線治療施設を活用した医学・工学融合型の学位プログラム重粒子線医工連携コースを設置し、重粒子線医学・生物学及び重粒子線先端臨床に加えて、高度医療機器やその運用技術の研究開発を担う工学系の世界的なリーダーを養成する教育に取り組んでいる。 |
| （２） | 強みを有する統合腫瘍学や内分泌代謝学等の先端研究分野において、世界水準の研究力を強化するため、先端的な研究組織（未来先端研究機構）を設置して、海外から優秀な外国人研究者を招へいし、国際共同研究を推進するとともに、機動的・戦略的な法人運営を行うため、教員を全学的に一元管理する「学術研究院」を設置する計画を進めている。平成26年度に未来先端研究機構、平成27年度にビッグデータ統合解析センターを設置し、海外ラボラトリーを招致するなど、統合腫瘍学と内分泌代謝学の分野における国際共同研究を推進したほか、研究体制や成果等の評価を行うため、がん治療学会の会長をはじめとした３名の研究者を委員とする国際アドバイザリーボードを設置し、アドバイザーをシンポジウムに招へいしている。 |